

(様式第 10)

伊総第 16-307 号
平成 28 年 10 月 3 日

厚生労働大臣 塩崎 恭久 殿

開設者名 学校法人 東海大学
理事長 松前 義昭 (印)

東海大学医学部付属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 27 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒151-8677 東京都渋谷区富ヶ谷2-28-4
氏 名	学校法人東海大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

東海大学医学部付属病院

3 所在の場所

〒259-1193 神奈川県伊勢原市下糟屋143	電話(0463) 93 - 1121 (代)
-----------------------------	--------------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 循環器内科、2 呼吸器内科、3 消化器内科、4 血液腫瘍内科、5 神経内科、 6 リウマチ内科、7 腎内分泌代謝内科、8 総合内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
外科と組み合わせた診療科名 1 心臓血管外科、2 呼吸器外科、3 消化器外科、4 小児外科、5 乳腺内分泌外科、 6 移植外科、7 形成外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

<input checked="" type="radio"/> 1精神科	<input checked="" type="radio"/> 2小児科	<input checked="" type="radio"/> 3整形外科	<input checked="" type="radio"/> 4脳神経外科	<input checked="" type="radio"/> 5皮膚科	<input checked="" type="radio"/> 6泌尿器科	7産婦人科
<input checked="" type="radio"/> 8産科	<input checked="" type="radio"/> 9婦人科	<input checked="" type="radio"/> 10眼科	<input checked="" type="radio"/> 11耳鼻咽喉科	12放射線科	13放射線診断科	
<input checked="" type="radio"/> 14放射線治療科	<input checked="" type="radio"/> 15麻酔科	16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	<input checked="" type="radio"/> 有・無
歯科と組み合わせた診療科名 1 歯科口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 画像診断科、2 リハビリテーション科、3 臨床検査科、4 緩和ケア科、5 病理診断科、 6 救命救急科
--

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
0 床	0 床	0 床	0 床	804 床	804 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成28年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	485人	136人	505.8人	看 護 補 助 者	159人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	21人	16人	22.8人	理 学 療 法 士	24人	臨 床 検 査 技 師	145人
薬 剤 師	81人	5人	84.6人	作 業 療 法 士	9人	検 査 衛 生 検 査 技 師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	8人	そ の 他	0人
助 産 師	28人	2人	29.3人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	0人
看 護 師	983人	60人	1,026.6人	臨 床 工 学 士	31人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	13人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	そ の 他 の 技 術 員	16人
歯 科 衛 生 士	8人	0人	8人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	193人
管 理 栄 養 士	15人	0人	15人	診 療 放 射 線 技 師	76人	そ の 他 の 職 員	0人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成28年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	36人	眼科専門医	7人
外科専門医	41人	耳鼻咽喉科専門医	10人
精神科専門医	7人	放射線科専門医	16人
小児科専門医	10人	脳神経外科専門医	12人
皮膚科専門医	4人	整形外科専門医	14人
泌尿器科専門医	10人	麻酔科専門医	18人
産婦人科専門医	17人	救急科専門医	15人
		合 計	217人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (飯田 政弘) 任命年月日 平成28年 4 月 1 日

2005年度医療安全管理委員会委員
 2006年度医療安全管理委員会委員
 2007年度医療安全管理委員会委員

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	758.2人	14.8人	773.0人
1日当たり平均外来患者数	2,424.5人	101.5人	2,526.0人
1日当たり平均調剤数	1,847.6		剤
必要医師数			216人
必要歯科医師数			2人
必要薬剤師数			25人
必要(准)看護師数			471人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	710.74 m ²	鉄筋コンクリート造(免震)	病床数	32床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 159.36 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	13床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 82.8 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	375.52 m ²	鉄筋コンクリート造(免震)	(主な設備) 臨床化学多項目自動分析装置			
細菌検査室	199.38 m ²	鉄筋コンクリート造(免震)	(主な設備) 細菌自動分析機			
病理検査室	284.68 m ²	鉄筋コンクリート造(免震)	(主な設備) ホルマリン対応型切出台・フッシュアップル換気装置付流し台			
病理解剖室	131.40 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備) ホルマリン対応型切出台・フッシュアップル換気装置付流し台・解剖台			
研究室	10,957.34 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備)			
講義室	1,256.16 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	室数	8室	収容定員	810人
図書室	2,099.45 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	室数	1室	蔵書数	175,900冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成27年4月1日～平成28年3月31日	
紹介率	75.4%	逆紹介率	57.7%
算出根拠	A：紹介患者の数	22,254	人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	21,803	人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	6,233	人
	D：初診の患者の数	37,767	人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

※ 様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	

※ 様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	ベーチェット病	109
2	筋萎縮性側索硬化症	41	57	特発性拡張型心筋症	34
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	25
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	6	60	再生不良性貧血	131
6	パーキンソン病	328	61	自己免疫性溶血性貧血	81
7	大脳皮質基底核変性症	8	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	33
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	180
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	4
10	シャルコー・マリー・トゥース病	1	65	原発性免疫不全症候群	549
11	重症筋無力症	179	66	IgA腎症	54
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	27
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	124	68	黄色靱帯骨化症	20
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	28	69	後縦靱帯骨化症	81
15	封入体筋炎	0	70	広範脊柱管狭窄症	2
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	59
17	多系統萎縮症	35	72	下垂体性ADH分泌異常症	23
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	99	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライソゾーム病	9	74	下垂体性PRL分泌亢進症	84
20	副腎白質ジストロフィー	3	75	クッシング病	43
21	ミトコンドリア病	9	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	73	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	27
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	191
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	2	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	7	83	アジソン病	8
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	88
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	133
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	95
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	3
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	11
34	神経線維腫症	31	89	リンパ脈管筋腫症	2
35	天疱瘡	38	90	網膜色素変性症	32
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	3
37	膿疱性乾癬(汎発型)	1	92	特発性門脈圧亢進症	8
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	4	93	原発性胆汁性肝硬変	238
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	13
40	高安動脈炎	57	95	自己免疫性肝炎	170
41	巨細胞性動脈炎	9	96	クローン病	182
42	結節性多発動脈炎	59	97	潰瘍性大腸炎	389
43	顕微鏡的多発血管炎	47	98	好酸球性消化管疾患	2
44	多発血管炎性肉芽腫症	124	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	25	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	38	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	100	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	7	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	1314	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	290	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	260	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	430	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	807	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人ステル病	7	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	4	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	14
113	筋ジストロフィー	0	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	1	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	4	167	マルファン症候群	1
118	脊髄髄膜瘤	2	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	1	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	2
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	0	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	13	210	単心室症	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	2	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	310	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	17	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	300	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2	271	強直性脊椎炎	1
224	紫斑病性腎炎	2	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	1
227	オスラー病	0	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	2	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	9	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	4	283	後天性赤芽球癆	5
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	17
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	1

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料(一般7対1)	・データ提出加算2
・臨床研修病院入院診療加算	・小児入院医療管理料2・4
・救急医療管理加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・超急性期脳卒中加算	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・妊産婦緊急搬送入院加算	・歯科外来診療環境体制加算
・診療録管理体制加算1	・歯科診療特別対応連携加算
・急性期看護補助体制加算(25対1)	・
・看護職員夜間配置加算(12対1)	・
・療養環境加算	・
・無菌治療室管理加算1・2	・
・緩和ケア診療加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1・感染防止対策地域連携加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院支援加算2	・
・呼吸ケアチーム加算	・
・救命救急入院料3・4	・
・特定集中治療室管理料4	・
・総合周産期特定集中治療室管理料(母胎・胎児、新生児)	・
・新生児治療回復室入院医療管理料	・
・病棟薬剤業務実施加算1・2	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・皮下連続式グルコース測定
・糖尿病合併症管理料	・脳波検査判断料1
・がん性疼痛緩和指導管理料	・神経学的検査
・がん患者指導管理料1・2	・補聴器適合検査
・外来緩和ケア管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・移植後患者指導管理料1・2	・内服・点滴誘発試験
・糖尿病透析予防指導管理料	・センチネルリンパ節生検
・院内トリアージ実施料	・画像診断管理加算1・2
・外来放射線照射診療料	・遠隔画像診断
・がん治療連携計画策定料	・ポジトロン断層撮影
・がん治療連携管理料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・認知症専門診断管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・肝炎インターフェロン治療管理料	・冠動脈CT撮影加算
・薬剤管理指導料	・外傷全身CT加算
・医療機器安全管理料1・2	・心臓MRI撮影加算
・医療機器安全管理料(歯科)	・乳房MRI撮影加算
・在宅血液透析指導管理料	・外来化学療法加算1
・持続血糖測定器加算	・無菌製剤処理料
・遺伝学的検査(遺伝学的検査の注)	・心大血管疾患リハビリテーション料(I)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
・検体検査管理加算 I・IV	・運動器リハビリテーション料(I)
・遺伝カウンセリング加算	・呼吸器リハビリテーション料(I)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・がん患者リハビリテーション料
・時間内歩行試験	・通院・在宅精神療法(児童思春期精神科専門管理加算)
・胎児心エコー法	・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの・副甲状腺に対するもの)
・ヘッドアップティルト試験	・透析液水質確保加算2

施設基準の種類	施設基準の種類
・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部手術の通則4を含む。)に掲げる手術
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・腫瘍脊椎骨全摘術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	・体外衝撃波腎・尿管破碎術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・同種死体腎移植術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・生体腎移植術
・網膜再建術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・上顎洞形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)[歯科診療以外の診療に係るものに限る]	・輸血管管理料 I
・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術)	・輸血適正使用加算
・乳腺悪性腫瘍手術(注1・注2)	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜・心膜合併切除を伴うものに限る))	・麻酔管理料(I)・(II)
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・放射線治療専任加算
・経皮的冠動脈形成術	・外来放射線治療加算
・経皮的冠動脈ステント留置術	・高エネルギー放射線治療
・経皮的中隔心筋焼灼術	・1回線量増加加算
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術(レーザーシースを用いるもの)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・定位放射線治療
・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・補助人工心臓	・画像誘導密封小線源治療加算
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る)	・病理診断管理加算2
・体外衝撃波胆石破碎術	
・腹腔鏡下肝切除術	

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科治療総合医療管理料Ⅰ・Ⅱ	・歯科矯正診断料
・歯周組織再生誘導手術	・歯科技工加算
・歯科口腔リハビリテーション料2	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・口腔病理診断管理加算1	・クラウン・ブリッジ維持管理料

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
危機管理 鳥インフルエンザ感染個体のスクリーニングに関する研究	中島 功	救命救急医学	11,100,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
血小板細胞の構成論的理解による心筋梗塞発症メカニズムの理解と制御法の開発	後藤 信哉	循環器内科学	2,700,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
全国乳癌登録ビッグデータによるがん治療の均てん化と予後予測ツールの開発	徳田 裕	乳腺・内分泌外科学	4,400,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
多能性幹細胞移植による頭頸部癌術後機能回復のための再生医療の研究	大上 研二	耳鼻咽喉科学	200,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
肘部尺骨神経障害の電気診断検査法	児玉 三彦	リハビリテーション科学	800,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
嚥下時の舌骨・喉頭挙上を改善する等尺性開口筋訓練法の確立	小山 祐司	リハビリテーション科学	500,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
筋萎縮性側索硬化症発症機序におけるイノシトール6リン酸キナーゼの役割	永田栄一郎	神経内科学	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
高学習能ラットを規定する分子制御機構の包括的解析	吉井 文均	神経内科学	900,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
LC-MSMSによるアコニチン、アマニチン、テトロドキシンの一斉分析法の開発	斉藤 剛	救命救急医学	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
慢性閉塞性肺疾患の感受性遺伝子の網羅的同定と機能解析	青木 琢也	呼吸器内科学	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
カルボニルストレス軽減・腹膜透析患者腹膜庇護薬「ピロキサミン」の開発	角田 隆俊	腎・代謝内科学	100,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
透析患者の診療内容、バイオマーカーと予後に関する大規模観察研究の計画	深川 雅史	腎・代謝内科学	100,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
メタボローム解析による重症喘息の分子フェノタイプング	浅野浩一郎	呼吸器内科学	900,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
胎児胎盤羊膜系の母児連関に関与する因子と作用機構の解明	石本 人士	産婦人科学	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
移植腎Klothoの腎移植後ミネラル代謝における役割と腎・生命予後への影響	中村 道郎	移植外科学	900,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
呼吸不全に対するヘモグロビン小胞体を用いた酸素輸液治療	河野 光智	呼吸器外科学	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
損傷脊髄の再髄鞘形成に対するアミロライドの効果(小胞体ストレス応答能増強による)	渡辺 雅彦	整形外科	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
低酸素によるがん疼痛に関する研究	安心院純子	麻酔科学	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
口腔扁平上皮癌における真に有用な分子標的薬耐性マーカーの開発	山崎 浩史	口腔外科学	700,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
脳卒中片麻痺患者歩行障害に対する経皮的脊髄電気刺激による歩行機能再建	藤原 俊之	リハビリテーション科学	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
Notchシグナル活性化による骨代謝制御と骨肉腫発症の分子メカニズムの解明	六車ゆかり	血液・腫瘍内科学	1,500,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
ウサギ除神経モデルにおけるMIBGを用いた交感神経増生の検討	網野 真理	救命救急医学	900,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
アレルギー性気管支肺真菌症の新規治療標的分子の同定	小熊 剛	呼吸器内科学	1,400,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
新規血管再生促進性培養細胞移植による脳梗塞治療法の開発	瀧澤 俊也	神経内科学	1,400,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
先天性腎尿路形態異常の発症における抗酸化防御機構の関与	新村 文男	小児科学	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
脳梗塞後うつ病のリスクファクターの解明と治療システムの構築	三上 克央	精神科学	1,100,000	補助 委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
新発想による日本発次世代高精度放射線治療アルゴリズムの実証	國枝 悦夫	放射線治療科学	1,400,000	補助 委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
腹腔鏡下噴門側胃切除術後再建法別機能評価とQOLに関する研究	野村 栄治	消化器外科学	1,000,000	補助 委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
メタボロミクスを活用した食道癌特異的代謝機構の解明と新しいバイオマーカーの探索	小澤 壯治	消化器外科学	1,300,000	補助 委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
3次元仮想現実感による胆膵外科手術支援システムの構築と評価	中郡 聡夫	消化器外科学	1,100,000	補助 委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
MRI情報を活用した頭蓋内血流と髄液循環動態の流体力学的解析	松前 光紀	脳神経外科学	1,300,000	補助 委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
椎間板変性におけるWntシグナルとアラキドン酸カスケードとの分子メカニズムの解析	檜山 明彦	整形外科	1,100,000	補助 委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
モルヒネの鎮痛耐性形成に対するNMDA受容体活性調節因子D-セリンの作用	伊藤 健二	麻酔科学	900,000	補助 委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
糖ペプチドをターゲットとしたCA125の弱点を補う卵巣癌新規バイオマーカーの開発	三上 幹男	産婦人科学	1,200,000	補助 委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
動脈瘤治療用細径カバードステントの開発:プラズマ技術による表面及び薬剤徐放制御	長谷部光泉	画像診断学	1,500,000	補助 委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
酸化ストレス増強に基づく新たな低侵襲性急性白血病治療法の開発	川田 浩志	血液・腫瘍内科学	1,400,000	補助 委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
糖尿病関連代謝性ストレスに対する糸球体足細胞骨格維持機構の解明と新規治療法の開発	和田 健彦	腎・代謝内科学	1,600,000	補助 委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
皮膚筋炎に併発する急速進行性間質性肺炎の病態解明と新規治療法開発の試み	佐藤 慎二	リウマチ内科学	1,100,000	補助 委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
ウイルス感染喘息の病態におけるグループ2自然リンパ球の役割と新たな治療ターゲット	加藤 政彦	小児科学	1,300,000	補助 委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
虚血に耐性を持つ培養皮膚の開発	猪口 貞樹	救命救急医学	1,500,000	補助 委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
術後譫妄と酸化ストレスとの関連解析	竹山 和秀	麻酔科学	1,800,000	補助 委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
IL-15と類似した低分子化合物の探索と高齢者敗血症治療への応用	井上 茂亮	救命救急医学	700,000	補助 委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
NOTCH1およびHRASの機能的変異による口腔扁平上皮癌モデルの作製	太田 嘉英	口腔外科学	1,600,000	補助 委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
呼吸性移動腫瘍に対する四次元放射線治療における投与線量検証システムの開発	藤田 幸男	放射線治療科学	1,100,000	補助 委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
リピオドールの粘度調整法の確立と低粘度油性造影剤の開発	嶺 貴彦	画像診断学	600,000	補助 委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
椎間板由来、体性幹細胞を用いた末梢神経再生における基礎的研究	石井 崇之	整形外科	900,000	補助 委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
先天性上肢欠損、外傷性上肢切断に対する個性適応型情報処理に基づいた筋電義手の開発	高木 岳彦	整形外科	1,100,000	補助 委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
ヒトiPS細胞由来肝・前駆細胞の増殖分化の分子メカニズム	鶴谷 康太	消化器内科学	1,400,000	補助 委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
ナノダイヤモンドを用いた新規MRI造影剤のMRリンパ管造影への応用	松本 知博	画像診断学	1,200,000	補助 委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
損傷脊髄の再髄鞘形成に対するアミロライドの効果	今井 洸	整形外科	1,500,000	補助 委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
乳癌におけるアンドロゲンレセプターをターゲットとした治療の開発	新倉 直樹	乳腺・内分泌外科学	1,600,000	補助 委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
腸管繊維化のコラーゲン産生細胞の解析とTGF-βシグナル制御による新規治療戦略	今井 仁	消化器内科学	1,400,000	補助 委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
シナカルセット塩酸塩による過形成副甲状腺への退縮作用の解析	巽 亮子	腎・代謝内科学	1,800,000	補助 委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ヒト羊膜上皮の恒常性維持機構の解明	浅井 哲	産婦人科学	1,400,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
全身麻酔薬による睡眠障害とD体アミノ酸代謝との関連解析	渡邊真理子	麻酔科学	1,500,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
骨格筋間質由来幹細胞群シート・ベレットを用いた複雑な顔面神経ネットワークの再構築	齋藤 弘亮	耳鼻咽喉科学	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
非利き手でも施行できる二重課題の開発:分配性注意障害の臨床検査として	豊倉 穰	リハビリテーション科学	600,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
環境臭気分析による細菌同定法の開発	梅澤 和夫	救命救急医学	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
アテロコラーゲン細胞シート複合体による軟骨修復効果	佐藤 正人	整形外科	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
鳥用埋め込み型抗原抗体反応センサの開発研究	中島 功	救命救急医学	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
患児の自己臍帯血由来細胞を用いた唇顎口蓋裂児の顎裂再建治療の基礎研究	赤松 正	形成外科学	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
血漿交換で難治性EBV関連リンパ腫が治る?	幸谷 愛	血液・腫瘍内科学	700,000	補委	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業
ドクターヘリの適正な配置及び安全基準のあり方に係る研究	猪口 貞樹	救命救急医学	4,500,000	補委	厚生労働省 科学研究費補助金
アレルギー性気管支肺真菌症の診断・治療指針確立のための調査研究	浅野浩一郎	呼吸器内科学	5,041,600	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
関節治療を加速する細胞シートによる再生医療の実現	佐藤 正人	整形外科	31,076,924	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
再生医療産業化に向けた細胞製造・加工システムの開発/ヒト間葉系幹細胞由来の再生医療製品製造システムの開発	佐藤 正人	整形外科	9,045,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
免疫遺伝情報に基づく非血縁移植適合データベースの構築と最適なドナー・さい帯血の選択	鬼塚 真仁	血液・腫瘍内科学	391,304	補委	愛知県がんセンター (国立研究開発法人 日本医療研究開発機構)
PAI-1阻害に基づく新規放射線障害治療薬の臨床開発	安藤 潔	血液・腫瘍内科学	32,608,264	補委	国立大学法人東北大学 (国立研究開発法人 日本医療研究開発機構)
成人T細胞白血病に対する標準治療としての同種造血幹細胞移植法の確立およびゲノム解析に基づく治療法の最適化に関する研究	鬼塚 真仁	血液・腫瘍内科学	769,231	補委	国立がんセンター中央病院 (国立研究開発法人 日本医療研究開発機構)
発症時刻不明の脳梗塞患者に対する静注血栓溶解療法の適応拡大を目指した臨床研究	瀧澤 俊也	神経内科学	217,392	補委	国立研究開発法人国立循環器病研究センター (国立研究開発法人 日本医療研究開発機構)
慢性腎臓病(CKD)進行例の実態把握と透析導入回避のための有効な指針の作成に関する研究	深川 雅史	腎代謝内科学	384,616	補委	国立大学法人筑波大学 (国立研究開発法人 日本医療研究開発機構)
先天性リンパ管疾患の診療指針作成及び病理・細胞生物学的知見の臨床応用へ向けた研究	上野 滋	小児外科学	307,693	補委	学校法人慶應義塾 (国立研究開発法人 日本医療研究開発機構)
未来医療を実現する先端医療機器・システムの研究開発/先端医療機器の開発/麻痺した運動や知覚の機能を回復する医療機器・システムの研究開発	正門 由久	リハビリテーション科学	9,230,770	補委	学校法人慶應義塾 (国立研究開発法人 日本医療研究開発機構)
治験の実施に関する研究[モノエタノールアミノオレイン酸塩]	小泉 淳	画像診断学	615,385	補委	公益社団法人日本医師会 (国立研究開発法人 日本医療研究開発機構)
治験の実施に関する研究[g-CSF]	渡辺 雅彦	整形外科	87,184	補委	公益社団法人日本医師会 (国立研究開発法人 日本医療研究開発機構)
ゲノム医療従事者の育成プログラム開発	和泉 俊一郎	産婦人科学	2,165,385	補委	国立がん研究センター (国立研究開発法人 日本医療研究開発機構)
自己軟骨細胞シートのための統合的評価手法の開発/自己軟骨細胞シートの機能的評価	佐藤 正人	整形外科	10,000,000	補委	DNAチップ研究所 (国立研究開発法人 日本医療研究開発機構)
癌細胞由来小分子RNAによる炎症細胞の制御	幸谷 愛	血液・腫瘍内科学	35,425,000	補委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
炎症がん由来エクソソームにおける脂質の役割	幸谷 愛	血液・腫瘍内科学	1,690,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
PAI-1阻害剤による慢性骨髄性白血病(CML)根治の作用機序解明	安藤 潔	血液・腫瘍内科学	1,538,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
抗菌薬3剤併用による難治性潰瘍性大腸炎の治療	白井 孝之	消化器内科学	800,000	補委	国立大学法人北海道大学 (国立研究開発法人日本医療研究開発機構)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ヒト近位尿管上皮細胞を用いたバイオ人工尿管デバイスシステムの開発・事業化	角田 隆俊	腎・代謝内科学	12,996,203	補助 公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団 (国立研究開発法人日本医療研究開発機構)
備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の実用化を目指す研究	河野 光智	呼吸器外科学	1,250,000	補助 公立大学法人奈良県立医科大学 (国立研究開発法人日本医療研究開発機構)
PAI-1阻害に基づく造血幹細胞移植での造血機能改善薬	安藤 潔	血液・腫瘍内科学	7,522,000	補助 株式会社レナサイエンス (国立研究開発法人日本医療研究開発機構)
粒子線治療における腫瘍の線量応答性観測システムの開発	株木 重人	放射線治療科学	1,000,000	補助 国立大学法人広島大学 (国立研究開発法人日本医療研究開発機構)
官民共同による重篤副作用バイオマーカー開発	加川 建弘	消化器内科学	2,620,000	補助 公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団 (国立研究開発法人日本医療研究開発機構)
臨床病期I/II/III食道癌(T4を除く)に対する胸腔鏡下手術と開胸手術のランダム化比較第III相試験	小澤 壯治	消化器外科学	1,000,000	補助 学校法人慶應義塾大学 (国立研究開発法人日本医療研究開発機構)
局所進行食道癌に対して、治療の有効性向上を目指した新しい術前治療を確立する研究	小澤 壯治	消化器外科学	769,231	補助 国立研究開発法人国立がん研究センター (国立研究開発法人日本医療研究開発機構)
外来性PAI-1によるCML幹細胞制御機構の解明、CML幹細胞における内在性PAI-1発現の分子的機序の解明	安藤 潔	血液・腫瘍内科学	1,739,131	補助 国立大学法人東北大学 (国立研究開発法人日本医療研究開発機構)
抗血小板薬効果予測を可能とする階層統合シミュレータの開発に向けたモデリング	後藤 信哉	循環器内科学	4,090,910	補助 国立研究開発法人 理化学研究所
リンパ系腫瘍・多発性骨髄腫に対する標準的治療確立のための多施設共同研究	安藤 潔	血液・腫瘍内科学	500,000	補助 国立研究開発法人 国立がん研究センター
食道がんに対する標準治療確立のための多施設共同研究	小澤 壯治	消化器外科学	400,000	補助 国立研究開発法人 国立がん研究センター
気管支ぜん息の発症、増悪予防に関する調査研究	望月 博之	小児科学	3,936,000	補助 独立行政法人 環境再生保全機構
小児気管支喘息の発症とIL-33発現機序に関する研究	望月 博之	小児科学	320,000	補助 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター
神奈川県地域医療再生計画事業費補助金 身体合併賞対応人材育成事業	猪口 貞樹	救命救急医学	19,808,000	補助 神奈川県
神奈川県地域医療再生計画事業費補助金 医師の確保・定着や医療提供体制充実・強化に資する研究事業	猪口 貞樹	救命救急医学	3,208,000	補助 神奈川県
神奈川県地域医療再生計画事業費補助金 医療従事者のスキルアップに資する研修・講習事業	猪口 貞樹	救命救急医学	1,314,000	補助 神奈川県

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	高沢 研丞	医学部外科学系救命救急医学	Clinical features of non-clostridial gas gangrene and risk factors for in-hospital mortality	Tokai J Exp Clin Med, Vol. 40, No. 3, 124-129, 2015
2	大熊 壮尚	医学部外科学系救命救急医学	Effectiveness of outpatient intravenous immunoglobulin therapy for chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy	Human Frontier Science Program (HFSP) Journal, Vol. 9, Issue. 10, 2-8, 2015
3	大熊 壮尚	医学部外科学系救命救急医学	Examination of fluctuations in atmospheric pressure related to migraine	Springer Plus a SpringerOpen Journal, 4, 790-793, 2015
4	日上 滋雄	医学部外科学系救命救急医学	The first case of huge amebic intraabdominal tumor with asymptomatic amebic colitis	Surgical Case Reports, 2015; 1(1): 48. Epub 2015 Jun 16, 2015; 1(1): 48. Epub 2015 Jun 16., 2015
5	網野 真理	医学部外科学系救命救急医学	Nifekalant Hydrochloride and Amiodarone Hydrochloride Result in Similar Improvements for 24-Hour Survival in Cardiopulmonary Arrest Patients	J Cardiovasc Pharmacol, 66, 600-609, 2015
6	網野 真理	医学部外科学系救命救急医学	Long-term myocardial toxicity in a patient with tizanidine and etizolam overdose	Journal of Cardiology Cases, 13, 78-81., 2015
7	赤松 正	医学部外科学系形成外科学	A blinking periorbital prosthesis using surface electromyographic signals of the orbicularis oculi muscle	European Journal of Plastic Surgery, 38(5), 371-376, 2015
8	赤松 正	医学部外科学系形成外科学	Chronic expanding hematoma with feeding artery in the gluteus maximus muscle	European Journal of Plastic Surgery, 39(1), 73-76, 2015
9	赤松 正	医学部外科学系形成外科学	Comparison of Mandibular Stability after SSRO with Surgery-First Approach versus Conventional Ortho-First Approach	Journal of Plastic Surgery and Hand Surgery, 50(1), 50-55, 2015
10	赤松 正	医学部外科学系形成外科学	Lip repair surgery for bilateral cleft lip and palate in a patient diagnosed with trisomy 13 and holoprosencephaly	The Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine, 40, 58-62, 2015
11	赤松 正	医学部外科学系形成外科学	An Adverse Implication of Radiation Therapy for Implant-Retained Maxillofacial Prostheses.	The Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine, 40(3), 81-85, 2015
12	赤松 正	医学部外科学系形成外科学	Cranial reconstruction in a pediatric patient using a tissue expander and custom-made hydroxyapatite implant	The Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine, 40, 76-80, 2015
13	赤松 正	医学部外科学系形成外科学	Pyogenic granuloma: a retrospective 10-year analysis of 82 cases	The Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine, 40(3), 110-114, 2015
14	中川 知己	医学部外科学系呼吸器外科学	Sudden death of a 14-year-old girl with lymphangiomatosis	General Thoracic and Cardiovascular Surgery, Vol. 64 No. 2, 116-119, 2015
15	中川 知己	医学部外科学系呼吸器外科学	Sternal segment dislocation in a child treated by conservative observation	The Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine, Vol. 40 No. 2 July 20, pp 27-28, 2015

小計15件

16	千野 修	医学部外科学系消化器外科学	Small cell type of esophageal neuroendocrine carcinoma resembling a submucosal tumor	The Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine, Vol. 40, No. 2, pp.36-39, 2015
17	千野 修	医学部外科学系消化器外科学	Small intestinal metastasis from esophageal squamous cell carcinoma presenting with perforated peritonitis	The Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine, Vol. 40, No. 2, pp. 63-68, 2015
18	中村 知己	医学部外科学系消化器外科学	Ileal Intussusception Due to Metastasis from Squamous Cell Carcinoma of the Lung Resected 12 Years Previously	Tokai J Exp Clin Med, Vol. 40, No. 4, 137-140, 2015
19	貞廣 莊太郎	医学部外科学系消化器外科学	Randomized phase III trial of treatment duration for oral uracil and tegafur plus leucovorin as adjuvant chemotherapy for patients with stage II B/III colon cancer: final results of JFMC33-0502.	Annals of Oncology, 26(11), 2274-2280, 2015
20	貞廣 莊太郎	医学部外科学系消化器外科学	Treatment rationale and study design for clinical trial on the efficacy of UFT/LV for stage II colorectal cancer with risk factors for recurrence (JFMC46-1201).	Clinical Colorectal Cancer, 14(4), 277-280, 2015
21	貞廣 莊太郎	医学部外科学系消化器外科学	A phase II trial of combined chemotherapy with oral S-1 and 24-hour infusions of irinotecan plus Bevacizumab in patients with metastatic colorectal cancer.	Oncology, 88(6), 353-359, 2015
22	田島 隆行	医学部外科学系消化器外科学	Early colorectal cancer accompanied by multiple systematic abscess: A case report	Oncology Letters, 10, 2219-2222, 2015
23	鍋島 一仁	医学部外科学系消化器外科学	Combination of Laparoscopic and Endoscopic Approaches to Neoplasia with Non-exposure Technique (CLEAN-NET) for GIST with Ulceration	The Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine, Vol. 40, No. 3, pp. 115-119, 2015
24	鍋島 一仁	医学部外科学系消化器外科学	Solitary Fibrous Tumor of the Stomach Treated with Laparoscopic and Endoscopic Cooperative Surgery	The Tokai Journal of Experimental and Clinical Medicine, Vol. 40, No. 3, pp. 120-123, 2015
25	矢澤 直樹	医学部外科学系消化器外科学	Treatment with Anti-Fc ϵ RI α (MAR-1) Antibody Prevents Acute Islet Allograft Rejection in a Murine Model	Tokai J Exp Clin Med, 40(4), 141-148, 2015
26	和泉 秀樹	医学部外科学系消化器外科学	A case study of a collision tumor composed of cancers of the bile duct and pancreas	Surgical Case Reports, 2015, 1:40, Volume 1 2015, May 1:40, 2015
27	鶴養 拓	医学部外科学系整形外科	Usefulness of using laser-induced photoacoustic measurement and 3.0 Tesla MRI to assess knee cartilage damage: a comparison study	Arthritis Research & Therapy, 17, 1-10, 2015
28	高垣 智紀	医学部外科学系整形外科	Interactions between jellyfish mucin and hyaluronan in human chondrocytes	International Journal of Biological & Pharmaceutical Research, 6, 351-358, 2015
29	高木 岳彦	医学部外科学系整形外科	Evaluation of the first web-space narrowing in congenital anomalies with Z-deformity	J Plast Reconstr Aesthet Surg, 69(3), 341-345, 2015
30	高木 岳彦	医学部外科学系整形外科	On-top plasty as a treatment for floating finger	J Plast Reconstr Aesthet Surg, 68(6), 876-877, 2015
31	高木 岳彦	医学部外科学系整形外科	Congenital anomalies of the extremities occurring in siblings	The Journal of Hand Surgery (Asian-Pacific Volume), 21(1), 49-53, 2015
32	高木 岳彦	医学部外科学系整形外科	Isolated muscle transfer to restore elbow flexion in children with arthrogryposis	The Journal of Hand Surgery (Asian-Pacific Volume), 21(1), 44-48, 2015

小計17件

33	三谷 玄弥	医学部外科学系整形外科	Associations between venous thromboembolism onset, D-dimer, and soluble fibrin monomer complex after total knee arthroplasty	Journal of Orthopaedic Surgery and Research,2015 10:172,DOI: 10.1186/s13018-015-0315-4,2015
34	酒井 大輔	医学部外科学系整形外科	Does disc degeneration recruit cells from the bone marrow? Migration of bone marrow-derived cells in a new tail-looping disc degeneration model in the mouse	The Spine Journal,Vol. 15,1356-65,2015
35	内山 善康	医学部外科学系整形外科	Osteogenic Differentiation of Skeletal Muscle-Derived Multipotent Stem Cells In A Murine Model of Tibial Bone Fracture	Stem Cell Research & Therapeutics,1,1-10,2015
36	檜山 明彦	医学部外科学系整形外科	CCAAT/enhancer binding protein β Regulates the Expression of Tumor Necrosis Factor- α in the Nucleus Pulposus Cells	Journal of Orthopaedic Research,34,865-875,2015
37	檜山 明彦	医学部外科学系整形外科	Response to Tumor Necrosis Factor- α mediated Inflammation Involving Activation of Prostaglandin E2 and Wnt Signaling in Nucleus Pulposus Cells	Journal of Orthopaedic Research,33(12),1756-1768,2015
38	新倉 直樹	医学部外科学系乳腺・内分泌外科学	Changes in tumor expression of HER2 and hormone receptors status after neoadjuvant chemotherapy in 21 755 patients from the Japanese breast cancer registry	Annals of Oncology,27 (3),480-487,2015
39	新倉 直樹	医学部外科学系乳腺・内分泌外科学	Assessment of the Ki67 labeling index: a Japanese validation ring study.	Breast Cancer,23(1),92-100,2015
40	新倉 直樹	医学部外科学系乳腺・内分泌外科学	Diagnostic performance of 18F-fluorodeoxyglucose PET/CT and bone scintigraphy in breast cancer patients with suspected bone metastasis	Breast Cancer,23(4),662-667,2015
41	反町 隆俊	医学部外科学系脳神経外科学	Density of the cerebral cortex in computed tomography angiography source images and clinical outcomes in Grade V subarachnoid hemorrhage.	Neurological Research,37,684-690,2015
42	小路 直	医学部外科学系泌尿器科学	Morphological analysis of the effects of intraoperative transrectal compression of the prostate during high-intensity focused ultrasound for localized prostate cancer	International Journal of Urology,22巻,p.563-571,2015
43	小路 直	医学部外科学系泌尿器科学	Urethra-sparing high-intensity focused ultrasound for localized prostate cancer: Functional and oncological outcomes	International Journal of Urology,22 (11),p.1043-9,2015
44	小路 直	医学部外科学系泌尿器科学	Image-based monitoring of targeted biopsy-proven prostate cancer on active surveillance: 11-year experience	World Journal of Urology,34(2),p.221-227,2015
45	金澤 正浩	医学部外科学系麻酔科学	Reduction in amino-acid-induced anti-hypothermic effects during general anesthesia in ovariectomized rats with progesterone replacement.	Journal of anesthesia,Vol.30/No.1,123-131,2015
46	笠原 隆	医学部専門診療学系リハビリテーション科学	A case of Sneddon's syndrome attempted the suicide due to progressive mental deterioration	Jacob's Journal of Psychiatry and Behavioral Science,2015, 1(2): 009,1-4,2015
47	正門 由久	医学部専門診療学系リハビリテーション科学	Sensorimotor event-related desynchronization represents the excitability of human spinal motoneurons.	Neuroscience.,297,58-67,2015
48	藤原 俊之	医学部専門診療学系リハビリテーション科学	Modulation of cortical and spinal inhibition with functional recovery of upper extremity motor function among patients with chronic stroke	Restorative Neurology and Neuroscience,33,883-894,2015
49	橋本 順	医学部専門診療学系画像診断学	Recent advances of SPECT facilities for Cardiac Imaging	Ann Nucl Cardiol,1,136-138,2015

小計17件

50	橋本 順	医学部専門診療学系画像診断学	Use of myocardial perfusion SPECT for preoperative risk stratification of non-cardiac surgery	Ann Nucl Cardiol,1,43-52,2015
51	市川 珠紀	医学部専門診療学系画像診断学	Evaluation of Renal Artery Anomalies Associated with Horseshoe Kidney Using CT Angiography	Tokai J Exp Clin Med,vo;40, No. 1,16-21,2015
52	市川 珠紀	医学部専門診療学系画像診断学	A case of colon cancer associated with ulcerative colitis: Evaluation using CT colonography	Tokai J Exp Med,Vol.40 No. 3,104-109,2015
53	丹羽 徹	医学部専門診療学系画像診断学	Age-related changes of susceptibility-weighted imaging in subependymal nodules of neonates and children with tuberous sclerosis complex.	Brain Dev.,37,967-73,2015
54	丹羽 徹	医学部専門診療学系画像診断学	Intracranial Hemorrhage and Tortuosity of Veins Detected on Susceptibility-weighted Imaging of a Child with a Type IV Collagen α 1 Mutation and Schizencephaly.	Magn Reson Med Sci.,14,223-6,2015
55	新井 信	医学部専門診療学系漢方医学	The Effectiveness of the Japanese Kampo Medicine, Kamikihito, for the Cognitive Impairment of Dementia	Int Med J,22(3),175-177,2015
56	新井 信	医学部専門診療学系漢方医学	A Case of Insomnia successfully treated with sansoninto	J Kampo Med,2013,16-18,2015
57	中田 佳延	医学部専門診療学系漢方医学	Functional improvement of deglutition after hangekobokuto treatment in two cases: Endoscopy and fluoroscopy evaluation	Traditional & Kampo Medicine,2,97-101,2015
58	三上 幹男	医学部専門診療学系産婦人科学	Fully-sialylated alpha-chain of complement 4-binding protein:Diagnostic utility for ovarian clear cell carcinoma	Gynecologi Oncology,139,520-528,2015
59	田村 悦代	医学部専門診療学系耳鼻咽喉科学	Autologous fat augmentation of the vocal fold with basic fibroblast growth factor	Acta Oto-Laryngologica,135,1163-1167,2015
60	齋藤 弘亮	医学部専門診療学系耳鼻咽喉科学	Reconstruction of Multiple Facial Nerve Branches Using Skeletal Muscle-Derived Multipotent Stem Cell Sheet-Pellet Transplantation	PLOS ONE,なし, http://journals.plos.org/plosone/article?id=10.1371/journal.pone.0138371,2015
61	加藤 政彦	医学部専門診療学系小児科学	Virus detection and cytokine profile in relation to age among acute exacerbations of childhood asthma	Allergology International,64(Suppl),S64-S70,2015
62	平井 康太	医学部専門診療学系小児科学	A new method for objectively evaluating childhood nocturnal cough	Pediatric Pulmonology,volume 50,460-468,2015
63	國枝 悦夫	医学部専門診療学系放射線治療科学	Prospective Trial of Stereotactic Body Radiation Therapy for Both Operable and Inoperable T1N0M0 Non-Small Cell Lung Cancer: Japan Clinical Oncology Group Study JCOG0403.	Int J Radiat Oncol Biol Phys.,93(5),989-96,2015
64	佐藤 慎二	医学部内科学系リウマチ内科学	Utility of dermatomyositis-specific autoantibodies for diagnosis and clinical subsetting	International Journal of Clinical Rheumatology,10(4),257-271,2015
65	若林 孝幸	医学部内科学系リウマチ内科学	Dramatic Improvement of Subcutaneous Calcinosis by Intermittent, High-Dose Etidronate plus Cimetidine in a Patient with Juvenile Dermatomyositis	Case Reports in Rheumatology,Volume 2015,Article ID 817592, 3 pages,2015
66	鬼塚 真仁	医学部内科学系血液・腫瘍内科学	Bacterial Pneumonia-Induced Consistent Remission of Severe Immune Thrombocytopenia after Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation.	Internal Medicine,55,179-183,2015

小計17件

67	鬼塚 真仁	医学部内科学系血液・腫瘍内科学	Noninfectious Pulmonary Complications after Stem Cell Transplantation and Induction of an Innate Immune Response.	Journal of Blood Disorders & Transfusion, Vol.6, Issue3, 1-6, 2015
68	小川 吉明	医学部内科学系血液・腫瘍内科学	A phase I study of vorinostat combined with bortezomib in Japanese patients with relapsed or refractory multiple myeloma.	Int J Hematol, 103(1), 25-33, 2015
69	小熊 剛	医学部内科学系呼吸器内科学	Pulmonary artery aneurysm/pseudoaneurysm, a delayed complication of lung abscess: a case report	Tokai J Exp Clin Med., 40(3), 86-89, 2015
70	青木 琢也	医学部内科学系呼吸器内科学	Risk stratification of elderly community-acquired pneumonia by adding computed tomography	Internal Medicine, 55 (5), 425-426, 2015
71	後藤 信哉	医学部内科学系循環器内科学	Ticagrelor vs. Clopidogrel in Japanese, Korean and Taiwanese Patients With Acute Coronary Syndrome - Randomized, Double-Blind, Phase III PHILO Study-	circulation Journal, 79(11), 2452-2460, 2015
72	後藤 信哉	医学部内科学系循環器内科学	What is the meaning of P2Y12 reaction units in patients with essential thrombocythemia?	Journal of Cardiology Cases, 12(6), 205-207, 2015
73	大野 洋平	医学部内科学系循環器内科学	Transcatheter Aortic Valve Implantation Under Angiographic Guidance With and Without Adjunctive Transesophageal Echocardiography.	American Journal of Cardiology, 116(4), 604-11, 2015
74	大野 洋平	医学部内科学系循環器内科学	Anatomical features and management of bioresorbable vascular scaffolds failure: A case series from the GHOST registry.	CATHETERIZATION AND CARDIOVASCULAR INTERVENTIONS, 85(7), 1150-61, 2015
75	大野 洋平	医学部内科学系循環器内科学	Gender-related clinical and echocardiographic outcomes at 30-day and 12-month follow up after MitraClip implantation in the GRASP registry.	CATHETERIZATION AND CARDIOVASCULAR INTERVENTIONS, 85(5), 889-97, 2015
76	大野 洋平	医学部内科学系循環器内科学	Current Status and Clinical Development of Transcatheter Approaches for Severe Mitral Regurgitation	CIRCULATION JOURNAL, 79(6), 1164-71, 2015
77	大野 洋平	医学部内科学系循環器内科学	Early Discharge after Transfemoral Transcatheter Aortic Valve Implantation.	Heart, 101(18), 1485-90, 2015
78	大野 洋平	医学部内科学系循環器内科学	Neoatherosclerosis as the Cause of Late Failure of a Bioresorbable Vascular Scaffold.	JACC-Cardiovascular Interventions, 8(4), 633-4, 2015
79	大野 洋平	医学部内科学系循環器内科学	Transcatheter Aortic Valve Implantation Experience with SAPIEN 3	MINERVA CARDIOANGIOLOGICA, 63(3), 205-16, 2015
80	小嶋清一郎	医学部内科学系消化器内科学	The influence of drinking based on data from health check-up.	Jpn.J.Alcohol & drug dependence, 50, 144-157, 2015
81	瀧澤 俊也	医学部内科学系神経内科学	Protocol for Cerebral Microbleeds during the Non-Vitamin K Antagonist Oral Anticoagulants or Warfarin Therapy in Stroke Patients with Nonvalvular Atrial Fibrillation (CMB-NOW) Study: Multisite Pilot Trial	J Stroke Cerebrovasc Dis, 24(9), 2143-2148, 2015
82	駒場 大峰	医学部内科学系腎・代謝内科学	Parathyroidectomy and survival among Japanese hemodialysis patients with secondary hyperparathyroidism	Kidney International, 88, 350-359, 2015
83	駒場 大峰	医学部内科学系腎・代謝内科学	Cinacalcet and clinical outcomes in dialysis	Seminars in Dialysis, 28, 594-603, 2015

小計17件

84	壁谷 悠介	医学部内科学系総合内科学	Association between diabetes and increased prevalence of paranasal sinus disease: a cross-sectional study in Japanese adults	Journal of Epidemiology,25巻4号,297-302,2015
85	關 敏郎	医学部内科学系内分泌内科学	Adrenal Venous Sampling is Useful for a Definitive Diagnosis in Cushing's Syndrome with Bilateral Adrenal Tumors.	Tokai J Exp Clin Med.,Vol40, No4,149-156,2015

小計2件

合計85件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 事務局の設置、責務・業務、委員の構成と指名、開催と採決、運営、審査委員会情報の公表、審査資料、臨床研究等の審査、審査結果の判定区分、迅速審査、委員長・副委員長及び委員の業務、審査委員会事務局の業務、審査結果の通知	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 ・ 学校法人東海大学利益相反に関する規程 ・ 学校法人東海大学利益相反ポリシー	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 6 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 新規採用職員の入職時研修の一環として全員に臨床研究と倫理について講義形式の研修を義務付けている。	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各研修領域の研修プログラムに沿い、到達目標の達成を目指し、専門医取得に向けた臨床研修を実施。
--

2 研修の実績

研修医の人数	112人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
伊莉 裕二	循環器内科	教授	30年	
浅野 浩一郎	呼吸器内科	教授	31年	
小熊 剛	呼吸器内科	准教授	25年	
端山 直樹	呼吸器内科	講師	23年	
川口 義明	消化器内科	准教授	23年	
小川吉明	血液腫瘍内科	教授	27年	
安藤 潔	血液腫瘍内科	教授	29年	
瀧澤 俊也	神経内科	教授	35年	
鈴木 康夫	リウマチ内科	教授	40年	
深川 雅史	腎内分泌代謝内科	教授	32年	
豊田 雅夫	腎内分泌代謝内科	准教授	20年	
木村 守次	腎内分泌代謝内科	講師	16年	
高木 敦司	総合内科	教授	39年	
長 泰則	心臓血管外科	教授	26年	
岩崎 正之	呼吸器外科	教授	31年	
中村 道郎	移植外科	准教授	28年	
小澤 壮治	消化器外科	教授	34年	
徳田 裕	乳腺内分泌外科	教授	33年	
上野 滋	小児外科	教授	38年	
赤松 正	形成外科	教授	26年	
山本 賢司	精神科	教授	26年	
松本 英夫	精神科	教授	33年	
望月 博之	小児科	教授	35年	
鈴木 啓二	小児科	教授	34年	
小池 隆志	小児科	講師	15年	
渡辺 雅彦	整形外科	教授	29年	
松前 光紀	脳神経外科	教授	34年	
馬淵 智生	皮膚科	准教授	17年	
寺地 敏郎	泌尿器科	教授	38年	

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
和泉 俊一郎	産婦人科	教授	38年	
三上 幹男	産婦人科	教授	32年	
鈴木 康之	眼科	教授	32年	
大上 研二	耳鼻咽喉科	教授	29年	
国枝 悦夫	放射線治療科	教授	35年	
鈴木 利保	麻酔科	教授	34年	
西山 純一	麻酔科	准教授	27年	
松田 光正	麻酔科	助教	17年	
橋本 順	画像診断科	教授	28年	
正門 由久	リハビリテーション科	教授	34年	
宮地 勇人	臨床検査科	教授	29年	
中村 直哉	病理診断科	教授	31年	
猪口 貞樹	救命救急科	教授	38年	
金子 明寛	口腔外科	教授	32年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

【認定静脈注射看護師講習会】

- ・研修の主な内容
静脈注射を単独で施行できる看護師の育成
- ・研修の期間・実施回数・参加人数
1回目：2015年 5月16日（37人）
2回目：2015年 7月 4日（37人）
3回目：2015年10月17日（39人）

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

【シフトリーダーナース研修】

- ・研修の主な内容
組織におけるシフトリーダーナースの位置づけとリーダーシップについて学ぶ
- ・研修の期間・実施回数・参加人数
第1回目：2015年11月 6日
第2回目：2015年11月10日（2日間 合計71人）

【トップリーダーナース研修】

- ・研修の主な内容
組織におけるトップリーダーの役割や業務、リーダーに必要なスキルについて学ぶ
- ・研修の期間・実施回数・参加人数
2015年10月30日（42人）

【モジュラーグループリーダー研修】

- ・研修の主な内容
モジュラーグループの目的、モジュラーグループリーダーの役割や業務を学ぶ
- ・研修の期間・実施回数・参加人数
2016年3月11日（36人）

【看護単位責任者就任時研修】

- ・研修の主な内容
看護単位責任者の役割、看護管理者としての倫理性
- ・研修の期間・実施回数・参加人数
2016年3月30日（2人）

【主任就任時研修】

- ・研修の主な内容
主任としての役割と責任（看護単位責任者の補佐・代行業務）について学ぶ
- ・研修の期間・実施回数・参加人数
2015年5月13日（4人）

【副主任就任時研修】

- ・研修の主な内容
副主任の役割と責任、副主任活動について学ぶ
- ・研修の期間・実施回数・参加人数
2015年5月26日（15人）

【看護単位責任者研修（リフレッシュ研修）】

- ・研修の主な内容
看護単位責任者の立場から考えた職場倫理
- ・研修の期間・実施回数・参加人数
2016年1月21日（39人）

【主任研修（リフレッシュ研修）】

- ・研修の主な内容
中堅・若手スタッフに対する安全教育の組織感覚・安全風土熟成への関わり
- ・研修の期間・実施回数・参加人数
2016年3月25日（39人）

【副主任研修】

- ・研修の主な内容
手指衛生を行なう根拠を理解し啓発活動に活かす
- ・研修の期間・実施回数・参加人数
2016年2月24日（75人）

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容・実施期間・参加人数

2015年6月26日 :自身が持てる!がん患者への呼吸困難への対応 (1名)

2015年7月31日 :急変対応コース (6名)

2015年8月 7日 :急変気づきコース (19名)

2016年1月29日 :急変対応コース (7名)

2016年2月 5日 :急変気づきコース (16名)

2016年3月18日 :がん放射線療法看護 (応用編) (2名)

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	飯田 政弘
管理担当者氏名	梅澤 博之

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	伊勢原総務課
		各科診療日誌	伊勢原総務課
		処方せん	薬剤部
		手術記録	診療情報管理課
		看護記録	診療情報管理課
		検査所見記録	診療情報管理課
		エックス線写真	診療情報管理課
		紹介状	診療情報管理課
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療情報管理課
			手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院時要約、入院診療計画書については、別紙参照
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	伊勢原人事課 臨床研修部
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	伊勢原研究支援課
		高度の医療の研修の実績	医療安全対策課 看護部
		閲覧実績	伊勢原総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	伊勢原総務課 薬剤部
規則第一條の十一第一項に掲げる事項	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策課
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全対策課
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全対策課
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全対策課
			DB管理

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	院内感染対策室
	第二項	院内感染対策のための委員会の開催状況	院内感染対策室
	第一号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	院内感染対策室
	第三号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	院内感染対策室
	第一号	医薬品安全管理責任者の配置状況	医薬品安全管理室
	第二号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部 医薬品安全管理室
	第三号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部 医薬品安全管理室
	第四号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部 医薬品安全管理室
	第五号	医療機器安全管理責任者の配置状況	医療機器安全管理責任者（診療技術部長）
	第六号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療機器安全管理責任者または当該部署
第七号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療機器安全管理責任者または当該部署	
第八号	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療機器安全管理責任者または当該部署	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全対策課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	院内感染対策室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医薬品安全管理室
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全対策課 診療情報管理課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療安全対策課 診療情報管理課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全対策課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照
		監査委員会の設置状況	様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全対策課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全対策課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全対策課 総合相談室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全対策課
職員研修の実施状況	医療安全対策課		
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全対策課 医薬品安全管理室 診療技術部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第5) **別紙**

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

診療に関する諸記録

(手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書)

1. 診療記録 (含むエックス線写真) の保管期間 (電子カルテ化以前分)

- ① 外来カルテ : 診療の完結の日から 10 年間とし、死亡患者の場合は 14 年間とする。
- ② 入院カルテ : 診療の完結の日から 14 年間とする。

※上記保管期間を過ぎたもので、教育・研究等で必要とする場合は、別に保管する。

2. 紙カルテ (電子カルテ化以前分) の保管方法

- ① 外来カルテ : 2005 年 10 月以前分は、全科 1 フォルダーの患者 ID 番号のターミナルディジット分類保管とする。
- ② 入院カルテ : 1 入退院毎に製本し患者 ID 番号ターミナルディジット分類による分類保管とする。

3. エックス線写真 (電子カルテ化以前分) の保管分類方法

- ① 2006 年 1 月以前分は、患者 ID 番号ターミナルディジット分類による保管分類とする。

以上

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	梅澤 博之(病院事務部長)	
閲覧担当者氏名	岡名 秀夫(診療情報管理課長)、石橋 利昭(伊勢原総務課長)	
閲覧の求めに応じる場所	診療録閲覧室等	
閲覧の手続の概要		
診療記録の開示及び閲覧は、「個人情報開示請求書」の提出に基づき、情報漏えい防止の観点より安全を配慮し、請求者の十分な確認後、主治医、委員会、病院長等に許可申請を行い、決裁後、閲覧あるいは写しの提供を行っている。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件	
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 当院における安全管理に関する基本的考え方 私たち教職員は、全ての行為に対して常に適度な緊張感を持ち、危機管理意識を維持し、安全な医療サービスを提供できるよう努める。2. 医療のための委員会およびその他医療機関内の組織に関する基本的事項に係る安全管理 (1) 医療に係る医療安全管理体制の確保及び推進を図るため、医療安全管理委員会を設置し、医療安全管理委員会の総括の下に、特定な事項を検討するため、各種の委員会並びに分科会を置く。 (2) 医療に係る安全管理を行う部門として、医療監査部（医療安全対策課・医療安全調査課・院内感染対策室・放射線治療品質管理室・医薬品安全管理室・臨床研究監査室）を置き、医療安全に係る企画立案・評価・職員の安全管理に関する意識の向上等組織横断的に指導するため専任医療安全管理者を医療安全対策課に配置する。3. 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針 医療安全に係る研修を「医療安全・感染防止セミナー」と位置づけ全教職員に対して、以下の研修を実施する。 なお、新規採用、異動者、出向終了者、育児休業・産休から復帰した者及び臨床研修医に対する研修は別途実施する。 (1) 医療安全に関する事項 (2) 感染防止対策に関する事項 (3) 医薬品関連に関する事項 (4) 医療機器関連に関する事項 (5) その他重大な事象が発生した事項4. 当院における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 インシデントやアクシデントが発生した場合は、速やかにインシデント情報登録システム（EMI）に必要事項を入力し、医療監査部へレポートを提出する。提出されたレポートが診療録及び看護記録に基づき記載されているかを専任医療安全管理者が検証する。 重要と思われるレポートについては、レポート検討会で検証し、医療安全管理委員会に諮る。さらに、対策が必要な事象については、RCA（根本原因分析）或いは事故調査委員会で検証する。5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 当該者の健康回復に全力を尽くすことを優先し、可及的速やかに上司に連絡し判断を仰ぎ、必要に応じて院内に緊急情報を発信し処置を行なう十分な人員を確保する。6. 医療従事者と患者との間の情報共有に関する基本方針 (患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む) 医療安全対策マニュアルは、当院のホームページ及び病院情報システム端末に掲載し、いつでも情報が取得できる環境を構築し公開する。 また、患者からの医療の安全管理及び安全対策等についての質問等があれば積極的に情報を開示する。7. 患者からの相談への対応に関する基本方針 患者・家族からの相談に適切に応じる体制を確保するために、総合相談室に相談窓口を設置し、安全管理体制の確保について、関係部署に改善等の指導をする。8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針 各部署にリスクマネージャーを配置し、医療安全管理委員会で決定した医療安全に係る事項を所属員へ周知させる。また、安全情報としてセイフティ・トピックスの発行並びに各種ガイドラインの策定を行い教職員に周知する。	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>設置の有無（有・無）</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 委員構成（委員：31名、オブザーバー：3名、事務局：3名） 医療監査部長（委員長）、専任医療安全管理者、医療監査部次長、院内感染対策室、専任院内感染対策責任者、放射線治療品質管理室、医薬品安全管理室、医薬品安全管理責任者、医療安	

全専任薬剤師、臨床研究監査室、臨床研修部、医師（内科学系・外科学系・専門診療学系）、医療機器管理・呼吸ケア支援センター、診療技術部、医療機器安全管理責任者、薬剤部、看護部（部長、次長、医療安全対策委員）、褥瘡対策委員会委員長、事務（伊勢原総務課、伊勢原用度管理課、医療安全調査課、医事課、診療情報管理課）

2. 医療安全管理委員会の開催状況
実施：平成27年4月13日、平成27年5月11日、平成27年6月8日、平成27年7月13日、平成27年8月10日、平成27年9月14日、平成27年10月13日、平成27年11月9日、平成27年12月14日、平成28年1月12日、平成28年2月8日、平成28年3月14日
3. 主な内容
 - (1) 提出されたインシデント／アクシデントレポートの検討
 - (2) 医療に係る医療安全の諸規程の整備
 - (3) 重大な問題が発生した事象に対する事故調査委員会の設置
 - (4) 重要な対策が必要な事象に対する「RCA（根本原因分析）検討会」の実施
 - (5) 医療安全・感染防止セミナーの企画、実施及びセイフティ・トピックスの発行
 - (6) 医療安全対策チーム設置の検討
 - (7) 東海大学医学部附属病院群への医療安全に関する周知事項の審議
 - (8) リスクマネージャー会で検討する事項の審議及びリスクマネージャー会の実施
 - (9) 医療安全対策マニュアル及び医療安全基本マニュアル（携帯版）の策定
 - (10) 医療安全月間の企画
 - (11) 医療機器の保守点検・安全使用に関する体制の確保について医療機器関連分科会で策定した事項を協議する
 - (12) 院内感染防止対策委員会、医薬品安全管理委員会及び高難度新規医療技術委員会で策定される院内感染対策、医薬品及び高難度新規医療技術の安全管理体制について連携する
 - (13) 厚生労働省への提出事象の分類
 - (14) 厚生労働省への医療機器に関する提言事象の抽出
 - (15) 前各号に掲げたもののほか委員長が必要と認めた事項

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年10回

- ・ 研修の主な内容：
 1. 第1回医療安全・感染防止セミナー（医療安全の日セミナー）：平成27年4月9日
「医療面接におけるマナー・コミュニケーションー医療コンフリクトマネージメントとADRー」「相互ラウンド受審に対する対応について」
 2. 第2回医療安全・感染防止セミナー：平成27年5月12日
「クロストリジウム ディフィシルの多発事例と対策」「インシデント管理システム」
 3. 第3回医療安全・感染防止セミナー：平成27年6月9日
「11A病棟におけるクロストリジウムディフィシル（CD）アウトブレイク対策実施と現状報告」「規制医薬品、薬剤禁忌登録について」
 4. 第4回医療安全・感染防止セミナー：平成27年7月8日
「新褥瘡管理システムについて」「MERSに備えて」「“人生の最終段階における医療”の決定プロセスに関するガイドライン」
 5. 第5回医療安全・感染防止セミナー：平成27年9月11日
「感染制御支援システムLa-vietal IS について」「輸血の副作用TRALI と TACO、輸血製剤取扱時の注意」「診療関連死の検証制度：院内事故調査制度の開始に向けて」
 6. 第6回医療安全・感染防止セミナー：平成27年10月5日
「アシネトバクター多発の対応について」「短時間作用型麻薬の安全な使用法について」「生体情報モニターにおける安全使用のポイント」
 7. 第7回医療安全・感染防止セミナー：平成27年11月12日
「医療訴訟の概要と概況」「院内感染症の防止対策をめぐる裁判例の動向」「医療者と法的責任」
 8. 第8回医療安全・感染防止セミナー：平成28年1月7日
「手指衛生遵守率向上に向けた取り組み」「褥瘡における外用薬」「放射線治療品質管理室の活動報告」「医薬品の安全管理」
 9. 第9回医療安全・感染防止セミナー：平成28年2月15日
「インフルエンザの院内感染の防止対策」「暴言・暴力への対応」「個人情報保護に関する注意点」
 10. 第10回医療安全・感染防止セミナー：平成28年3月8日
「結核の感染防止対策ー塗抹検査の有効活用ー」「2015年度医療安全対策のまとめ」「鎮痛・鎮静薬の安全な使用法」「クイックトラックの使用法」

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)

・ その他の改善のための方策の主な内容:

1. 各年度のレポート報告提出枚数

- 1) 平成11年度: 2,892枚 2) 平成12年度: 5,534枚 3) 平成13年度: 5,132枚
4) 平成14年度: 5,179枚 5) 平成15年度: 5,634枚 6) 平成16年度: 5,517枚
7) 平成17年度: 5,398枚 8) 平成18年度: 5,416枚 9) 平成19年度: 5,685枚
10) 平成20年度: 6,064枚 11) 平成21年度: 6,173枚 12) 平成22年度: 6,060枚
13) 平成23年度: 5,263枚 14) 平成24年度: 4,845枚 15) 平成25年度: 5,277枚
16) 平成26年度: 4,995枚 17) 平成27年度: 5,610枚

2. 発生した事故等の医療安全管理委員会への報告

インシデント/アクシデント・合併症レポートは専任医療安全管理者がレポート取扱い基準に従い、レポート内容の確認を行い、月別インシデント/アクシデント・合併症レポート一覧表を作成している。医療監査部で一覧表事例の分析及び検証を行い、結果について医療安全管理委員会へ報告を行っている。特に重要な事象はレポート検討会に諮り、レポート検討会で検討された対策案等を医療安全管理委員会へ具申している。

3. 事故等の収集・分析による組織としての改善策の企画立案及びその実施状況の評価と情報の共有

(1) 月別にインシデント/アクシデントレポートを各事象(CV関連・気道関連・ドレーン関連・化学療法関連・医療機器関連・転倒転落関連・医薬品関連)ごとに統計・解析し、各種会議体(病院運営会議・診療科長会・診療協議会)、RM会、セミナー等で注意を喚起している。

(2) レポート検討会で提案された対策案等を医療安全管理委員会で審議し、さらに検討・対策が必要な事象は、根本原因分析(RCA)・各分野の医療安全対策チーム(CV関連・気道関連・ドレーン関連・医薬品関連・医療機器関連・転倒転落関連・肺血栓塞栓症関連・抗凝固薬服用中止関連・予期せぬ急変・救急カート・身体抑制/自己抜去防止・患者誤認)で対策案等を検討している。

(3) 上記で検討された対策案等は、各種会議体(病院運営会議・診療科長会・診療協議会)・RM会・セミナー・セイフティ・トピックス等で周知している。

4. 重大事故発生時の病院管理者への報告及び再発防止策(背景要因・根本原因分析)

(1) 重大な事故が発生した場合は、手順に従い、速やかに病院長に報告する。また、インシデント/アクシデントレポートとは別に、時系列の報告書(事例報告書)を24時間以内に提出させ、病院長へ報告している。

(2) 事象に応じて、根本原因分析(RCA)・事故調査委員会・事故検証委員会・外部評価委員会を立ちあげ再発防止策を講ずる。

5. 診療記録等監査

診療録等の記載から医療過程においてどのような影響があったか。また、診療録記載以外にも、医療の安全や患者満足度、適正な医療の実施などの評価を隔月で6回/年、診療記録等監査として定期開催している。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容： 院内感染対策のための指針 以下の 7 項目は、平成 19 年 4 月 1 日付で公布された医療法施行規則改正と感染症の予防及び感染症患者に関する法律（感染症）に基づいている。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 院内感染対策に関する基本的考え方 私たち東海大学医学部付属病院において医療に従事する者は、全ての行為に対して常に適度な緊張感を持ち、危機管理意識を維持し、患者診療における院内感染防止対策のため努力する。2. 院内感染対策のための委員会その他の組織に関する基本事項 院内感染防止対策委員会は、「医療法施行規則：平成19年4月1日付け改正公布」「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律：いわゆる感染症法」と「医療法」および院内感染対策管理のための施設基準に基づき、東海大学医学部付属病院（以下「病院」という）における病院内感染者の取り扱いおよび管理に関する事項を定め、病院感染による事故の発生を防止し、併せて病院内環境の保全を図ることを目的として設置する。すなわち、本委員会の目的は、病院における院内感染の実情を把握し、その発生・蔓延を防止する対策を立案して、医学部長および病院長にその実施を提言することにある。3. 院内感染対策のための従事者に対する研修に関する基本方針<ol style="list-style-type: none">(1) 感染対策担当者および感染対策チームは、施設全体の職員（委託業者を含む）を対象として、定期的に院内感染防止対策に関する教育、研修を行う。新採用職員（途中採用者を含む）において、採用時に随時、院内感染防止対策に関する教育、研修を行う。(2) 感染対策担当者は、院内感染の増加が疑われる、あるいは確定した場合、介入の手段として、部署（診療単位）や職種を限定して、院内感染防止対策に関する教育、研修を行う。(3) リンクドクターとリンクナースは連携して、各診療領域における一般医療スタッフに対して感染防止対策上の問題認識向上と啓発指導を図る。4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針<ol style="list-style-type: none">(1) 感染症の院内における発生を迅速に把握できる方法を確立し、院内感染を未然に防ぐ、または蔓延を防止するために、リアルタイムに対策を立てられるようにする。(2) 感染症の発生の報告は、主治医および病棟医長・病棟看護責任者から感染症患者発生報告書にて、院内感染対策室を経由して、病院長に提出される。(3) 「感染症法」に規定される届出は、最寄りの保健所長を経由して都道府県知事に届け出る。5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針<ol style="list-style-type: none">(1) 院内感染の発生動向の監視（サーベイランス）を実施し、動向の分析に基づき、対策を立案し、改善のための方策を実施する（コンサルテーション）。(2) 院内感染発生時の対応手順を明確化し、文書として「院内感染防止対策マニュアル」に記述し、院内感染発生時には迅速に対応できるようにする。6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 院内感染対策のための指針（マニュアル）は、全職員が随時参照できるように、病院情報システム用端末の「掲示板」に掲載してある。また、指針（マニュアル）は、患者が閲覧できるように、病院のホームページにも掲載してある。指針の詳細についての質問があれば、積極的に開示する旨、マニュアルの「序論」に掲載してある。7. その他の医療機関内における院内感染対策の推進のための必要な基本方針<ol style="list-style-type: none">(1) 院内感染対策の推進のために必要な方策を明確化し、文書として「院内感染防止対策マニュアル」に記述し、院内感染発生を未然に防ぐ、また発生時に蔓延を防ぐようにする。	

(2) 院内感染対策室(院内感染担当者)では、感染症の発生状況を把握し、発生状況で重要な動向や患者発生については、病院全体で情報を共有化するよう情報提供する

② 院内感染対策のための委員会の開催状況

年 12 回

・ 活動の主な内容:

1. 委員の構成(委員:21名、事務局:2名)

院内感染防止対策委員長、委員医師18名(内科学系、外科学系、専門診療学系)、事務部1名、看護部1名、医療技術職員1名、事務局2名(院内感染対策室専従臨床検査技師)

2. 主な内容

- (1) 感染症の地域流行などの感染症情報の把握と提供に関すること。
- (2) 院内感染発生の監視・疫学調査および情報の提供に関すること。(細菌培養・薬剤感受性などの情報)
- (3) 感染症発生の届出に関する業務およびその情報の保管に関すること。
- (4) 病院環境汚染の把握、医薬品や医療機器汚染の監視・指導に関すること。
- (5) 抗菌薬・消毒剤の使用状況の把握・適正使用の指導に関すること。
- (6) 院内の感染対策や感染制御の立案・実行・評価に関すること。(院内感染防止対策マニュアル)
- (7) 感染対策全般に関するコンサルテーションや指導・教育に関すること。
- (8) 院内感染防止対策に係わる経費算定・管理に関すること。
- (9) その他、病院長の指示する業務、あるいは委員会決定事項の遂行に関すること。

3. 院内感染防止対策委員会の開催状況

実施:平成27年4月21日、平成27年5月19日、平成27年6月16日、平成27年7月21日、平成27年8月18日、平成27年9月15日、平成27年10月20日、平成27年11月17日、平成27年12月15日、平成28年1月19日、平成28年2月16日、平成28年3月15日

③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況

年 10 回

・ 研修の主な内容:

1. 第1回医療安全・感染防止セミナー(医療安全の日セミナー):平成27年4月9日
「相互ラウンド受審に対する対応について」
2. 第2回医療安全・感染防止セミナー:平成27年5月12日
「クロストリジウム ディフィシルの多発事例と対策」
3. 第3回医療安全・感染防止セミナー:平成27年6月9日
「11A病棟におけるクロストリジウム・ディフィシル(CD)アウトブレイク対策実施と現状報告」
4. 第4回医療安全・感染防止セミナー:平成27年7月8日
「MERSに備えて」
5. 第5回医療安全・感染防止セミナー:平成27年9月11日
「感染制御支援システムLa-vietal ISについて」
6. 第6回医療安全・感染防止セミナー:平成27年10月5日
「アシネトバクター多発の対応について」
7. 第7回医療安全・感染防止セミナー:平成27年11月12日
「院内感染症の防止対策をめぐる裁判例の動向」
8. 第8回医療安全・感染防止セミナー:平成28年1月7日
「手指衛生遵守率向上に向けた取り組み」

9. 第9回医療安全・感染防止セミナー：平成28年2月15日

「インフルエンザの院内感染の防止対策」

10. 第10回医療安全・感染防止セミナー：平成28年3月8日

「結核の感染防止対策-塗抹検査の有効活用-」

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

1. 病院における発生状況の報告等の整備

- (1) 感染症の院内における発生を迅速に把握できる方法を確立し、院内感染を未然に防ぐ、または蔓延を防止するために、リアルタイムに対策を立てられるようにする。
- (2) 感染症の発生の報告は、主治医および病棟医長・病棟看護責任者から感染症患者発生報告書にて、院内感染対策室を経由して、病院長に提出される。
- (3) 「感染症法」に規定される届出は最寄りの保健所長を経由して都道府県知事に届け出る。

2. その他の改善のための方策の主な内容

耐性菌発生時の病棟別、診療科別動向調査を行い、薬剤使用状況との解析による各部署へのフィードバック、さらに担当医に対するコンサルテーションや病棟ラウンドによる感染防止対策。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 5 1 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">(1) 研修医に対する医薬品関連の講話 (1回)(2) 新人看護師に対する講義 (1回)(3) 救命救急センターにおける麻薬・筋弛緩薬・向精神薬の管理について (12回)(4) 中央手術室における重点管理薬品の管理について (6回)(5) 医療安全・感染防止セミナー<ul style="list-style-type: none">① 規制医薬品について (1回)② 「医薬品の安全使用のための業務手順書」の改訂 (1回)③ 短時間作用型麻薬の安全な使用法について (1回)④ 褥瘡における外用薬 (1回)⑤ 医薬品の安全管理 (1回)⑥ 鎮痛・鎮静剤の安全な使用法 (1回)(6) 全職員を対象とした「医薬品知識確認のeラーニング」(1回)(7) N-ICU・GCU看護師向けクリーンベンチ混注訓練 (5回)(8) 産科及び研修医向け講義 (16回)(9) 6A病棟・MFICU 新人看護師向け薬剤講義 (1回)(10) 13A病棟 オピオイド鎮痛薬について 看護師向け講義 (1回)(11) 11A・11B病棟 経腸栄養剤について 看護師・医師向け講義 (1回)	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の作成 ((有)・無)・ 業務の主な内容：<ul style="list-style-type: none">① 医薬品の採用審査に伴う薬事委員会への関与 (月 1 回)② 採用薬品情報・試用薬品情報の発行 (月 1 回)③ 採用中止情報の発行 (11回)④ 病棟・外来に定数保管されている医薬品の保管状況および品質管理 (年 3 回)⑤ 抗がん剤のレジメン管理および混合調製 (毎日)⑥ 持参薬チェックおよび再調剤 (毎日)⑦ 医薬品集作成 (年 1 回)⑧ 手順書に基づく業務の実施状況の確認	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ((有)・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">(1) 医薬品・医療機器等安全情報の配信 (10回)(2) 「効能効果」「用法用量」の追加、変更、削除に関するインフォメーションの発行 (8回)(3) DIニュースの発行 (9回)(4) 安全性速報の通知 (3回)(5) 医療安全情報の配信 (26回)(6) 診療科に対し医薬品の適応外使用調査を行い使用状況の確認を行う	

- 1) 人工心肺装置及び補助循環装置：年1回実施
- 2) 人工呼吸器：年2回実施
- 3) 血液浄化装置：年2回実施
- 4) 除細動装置：年1回実施
- 5) 閉鎖式保育器：年1回実施
- 6) 診療用高エネルギー放射線発生装置：年4回実施
- 7) 診療用放射線照射装置：年2回実施

①動作確認

②精度確認

③磨耗・損耗箇所確認

④安全機構確認

④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集
その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)

・ その他の改善のための方策の主な内容：

- ① 医療機器使用時における禁忌情報を“医療安全基本マニュアル（携帯版）”に追加掲載
- ② 医療機器関連分科会の指示のもと医療機器全般の不具合、使用、管理方法等について、医療機器安全対策チームで安全性等について検討している
- ③ 医療機器関連分科会の下部組織として小委員会を立ち上げ、医療機器の管理状況、研修の進捗状況を把握するための体制を維持

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>(1) 2016年4月1日付で医療安全管理責任者に副院長を配置 (2) 医療安全管理責任者は、医療安全管理部門の長である医療監査部長（医療安全管理委員長）として医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者から報告を求め、安全管理体制について連携し、統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(4名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品に関する情報の収集・整理・周知に関する業務は薬剤部 DI 係が行うものとする。 薬剤部 DI 係における情報の収集・整理・周知</p> <ul style="list-style-type: none">・緊急安全性情報（イエローレター）、安全性速報（ブルーレター）・添付文書及びインタビューフォーム等の禁忌、相互作用、副作用、薬物動態、使用上の注意等の追加及び改訂・医薬品製造販売業者からの情報・行政機関（PMDA 等）からの情報 など <p>周知方法</p> <ul style="list-style-type: none">・医薬品安全性情報等のうち迅速な対応が必要となる場合当該医薬品を処方した医師及び投与された患者を速やかに特定し診療科に周知・緊急安全性情報（イエローレター）、安全性速報（ブルーレター） 医薬品安全管理回覧表と共に各部署のリスクマネージャーへ配布し周知・その他の周知方法 病棟薬剤師と速やかに情報を共有し、医師・看護師・その他医療スタッフに対して周知。 院内ポータル掲示板にて通知し常時閲覧可能とする。 <p>周知状況の確認</p> <p>薬剤部 DI 係は周知した医薬品情報を医薬品安全管理委員会に報告し、医薬品安全管理責任者は周知状況を確認するものとする。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>使用状況の確認</p> <p>各診療科に対し医薬品の適応外使用調査を行い使用状況の確認を行う。 薬剤部薬剤科はその業務において取得した未承認等の医薬品の使用に関し、医薬品安全管理委員会に報告する。</p> <p>必要性の検討・指導</p> <p>未承認等の医薬品の使用に関し医薬品安全管理委員会において検討を行い医療安全管理委員会に報告する。必要により臨床研究審査委員会等に審査依頼を行う。</p>	

情報の共有

未承認等の医薬品情報に関し医療安全管理委員会に報告し情報の共有を図る。
また薬剤部薬剤科は得られた情報に留意し業務を行う。

新規使用

新規に未承認等の医薬品を使用する場合は臨床研究審査委員会へ審査依頼する。

・担当者の指名の有無 (有) 無

医薬品安全管理室 医療安全専任薬剤師

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

(有) 無

・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する
規程の作成の有無 ((有) 無)

・規程の主な内容：

- (1) 適切なインフォームド・コンセント（以下「IC」という。）を実施するための運用方法について定める。
- (2) ICの指針：医療行為はすべて十分な説明と同意が必要である。医療従事者は患者が適切な判断や同意をするために、十分な情報を提供しなければならない。ICとは、「患者の知る権利」と「自己決定権」を尊重し、医療従事者側が患者に理解できる手法を用いて十分な説明を行った上で、患者自身が同意し、最終的な治療方法を選択することである。
- (3) 管理責任体制：ICの管理責任者：診療部長
ICの管理責任者を置き、適切な実施のための教育・啓発を行う。
- (4) ICに関する会議体の組織：ICに関する会議体として、適切なICの実施状況を確認し、指導を行うため、IC記載状況確認分科会を置く。
- (5) ICの運用方法：実際の診療現場におけるICの運用ルールは、細則「インフォームド・コンセントの運用マニュアル」に定める。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

(有) 無

・活動の主な内容：

- (1) 診療録等の管理に関する責任者：診療情報管理課長
- (2) 記載状況の確認・指導等の方法
 - ① 診療録等の記載状況を日々確認する。
 - ② 十分でない記載については、その都度記載医に必要な指導を行う。
 - ③ 指導した事例については、定期的に委員会においてまとめる。
 - ④ 指導した事例については、定期的に病院の各部署に通知する。
 - ⑤ 部署に通知した内容は、研修会やセミナー等で報告、指導を行う。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有 無

・所属職員：専従（6）名、専任（0）名、兼任（3）名

うち医師：専従（0）名、専任（0）名、兼任（3）名

うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（0）名

うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（0）名

*うち事務：専従（3）名

*薬剤師、看護師の専従は2016年4月1日付で整備済み

医師の専従については2018年3月31日までに、1名配置

2018年4月1日以降、複数名配置

2020年4月1日：専従1名配置

・活動の主な内容：

(1) 医療安全管理委員会の運営に関すること

① 医療安全管理委員会の資料及び議事録の作成と保存

② その他医療安全管理委員会の庶務に関すること

(2) 医療事故等発生時の対応に関すること

① 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認及び必要な指導を行う

② 患者及び家族への説明など事故発生時の対応状況について確認及び必要な指導を行う

③ 事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認及び必要な指導を行う

(3) 安全管理のための職員に対する教育、研修の企画・運営に関すること

(4) 医療に係る安全確保を目的とした改善のための方策に関すること

① インシデント及びアクシデント発生時における情報の収集と分析

② 事故予防策、再発予防策の立案・評価及び見直し

(5) 医療安全に係る連絡調整に関すること

(6) その他医療安全対策の推進に関すること

(7) 医療安全に関する官公庁への届出及び報告に関すること

(8) 診療記録等監査の事務に関すること

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に

係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・ 規程の主な内容：
* 様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・ 規程の主な内容：
* 様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 監査委員会の設置状況

有・無

- ・ 監査委員会の開催状況：年 回
- ・ 活動の主な内容：
* 様式8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照
- ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）
- ・ 委員名簿の公表の有無（有・無）
- ・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法：

--

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：76件(2016年8月)
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：17件(2016年8月)

*2016年8月1日から医療安全管理部門への報告開始

・医療安全管理委員会の活動の主な内容

- ①提出されたインシデント／アクシデントレポートの検討
- ②医療に係る医療安全の諸規程の整備
- ③重大な問題が発生した事象に対する事故調査委員会の設置
- ④重要な対策が必要な事象に対する「RCA（根本原因分析）検討会」の実施
- ⑤医療安全・感染防止セミナーの企画、実施及びセイフティ・トピックスの発行
- ⑥医療安全対策チーム設置の検討
- ⑦東海大学医学部附属病院群への医療安全に関する周知事項の審議
- ⑧リスクマネージャー会で検討する事項の審議及びリスクマネージャー会の実施
- ⑨医療安全対策マニュアル及び医療安全基本マニュアル（携帯版）の策定
- ⑩医療安全月間の企画
- ⑪医療機器の保守点検・安全使用に関する体制の確保について医療機器関連分科会で策定した事項を協議する。
- ⑫院内感染防止対策委員会、医薬品安全管理委員会及び高難度新規医療技術委員会で策定される、院内感染対策、医薬品及び高難度新規医療技術の安全管理体制について連携する。
- ⑬厚生労働省への提出事象の分類
- ⑭厚生労働省への医療機器に関する提言事象の抽出
- ⑮前各号に掲げたもののほか委員長が必要と認めた事項

⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院への立入り（有）（病院名：兵庫医科大学病院）・無）
- ・他の特定機能病院からの立入り受入れ（有）（病院名：兵庫医科大学病院）・無）

・技術的助言の実施状況

* 2016 年度日本私立医科大学協会相互ラウンド組み合わせ大学病院と日程調整し実施する。

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

(設置状況等)

- ・ 窓口の名称：総合相談室
- ・ 相談日及び相談時間帯：月曜日～金曜日；9:00～15:00、土曜日(第2、第4を除く)9:00～12:00
- ・ 責任者の氏名及び職種：患者支援センター所長／医師
- ・ 対応部署：患者支援センター総合相談室

(活動状況等)

- ・ 患者等への明示方法
 - * ポスター、パンフレット、入院案内
- ・ 相談により患者等が不利益を受けないよう適切な配慮の具体的方策
 - * プライバシーの保護、匿名での相談及びご意見箱の設置（無記名での投書を可能としている）
- ・ 電話、投書箱、インターネット相談の実施など相談窓口以外の相談の受付方法
 - * 電話相談：有（総合相談室、当該部署で受けた内容を記録用紙或いは任意の用紙に記載している）
 - * ご意見箱の設置：有
(外来：4ヶ所/会計カウンター・時間外受付・健診センター・調べのコーナー
(病棟：11ヶ所/各病棟ラウンジ(10ヶ所)・救命救急センター(1ヶ所))
 - * インターネット相談：有（学園の広報課に届き、総務課に転送され対応する）

・解決策及び院内での対応方法

- * 一次対応部門（診療各科、各病棟、当該部署）において、解決に至らない事案については、二次対応部門（総務課、医事課、医療安全対策課/医療安全調査課）に報告・連絡・相談或いは事案の移管をして、連携している。
また、対応結果及び進捗状況について、病院執行部（病院長、副院長、診療部長）に報告をしている。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有・無）
- ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（有・無）
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有・無）

⑭ 職員研修の実施状況

- ・ 研修の実施状況

「医療安全・感染防止セミナー」と位置づけ全教職員に対して、年 10 回の開催を計画している。

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・ 研修の実施状況

* 2018 年 3 月 31 日までに、国及び医療関係団体等が主催する研修会を適宜受講し、完了する。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 【私立医科大学病院感染対策協議会相互ラウンド】日本医科大学付属病院 平成28年2月2日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 病院ホームページ上で、病院の機能・取組み、先進医療、各診療科における医師の専門性、診療内容、診療実績、各種講演会・講座の情報発信を行っている。 また、近隣医療機関向けとして「診療案内」、「のぞみ」等の冊子・チラシ、患者さん向けとして「医療小知識」を配布している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 【チーム医療の体制について】 ・栄養サポートチーム・呼吸ケアチーム・緩和ケアチーム・褥瘡対策チームなどのチームが定期的に回診をおこない、診療科の枠を超え患者のケアに当たっている。	

(様式第 8)

伊総第 16・282 号
平成 28 年 9 月 6 日

厚生労働大臣 塩崎 恭久 殿

開設者名 学校法人 東海大学
理事長 松前 義昭 (印)

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 医療安全管理責任者を配置するための予定措置

2016 年 4 月 1 日付けで整備済み (医療安全担当副院長を配置)

2. 医薬品安全管理責任者の活動を充実するための予定措置

2016 年 9 月 20 日 : 病院運営会議にて決定

2016 年 9 月 20 日 : 診療協議会にて周知

2016 年 9 月 30 日 : 教職員へ再周知

3. 医療を受ける者に対する説明に関する責任者を配置するための予定措置

2016 年 9 月 20 日 : 病院運営会議にて決定

2016 年 9 月 20 日 : 診療協議会にて周知

2016 年 9 月 30 日 : 教職員へ再周知

4. 説明の実施に必要な方法に関する規程を作成するための予定措置

2016年9月20日：病院運営会議にて決定
2016年9月20日：診療協議会にて周知
2016年9月30日：教職員へ再周知

5. 診療録等の管理に関する責任者を配置するための予定措置

2016年9月20日：病院運営会議にて決定
2016年9月20日：診療協議会にて周知
2016年9月30日：教職員へ再周知

6. 規則第9条の23第1項第10号に規定する医療に係る安全管理に資する措置を実施するための予定措置

2016年8月1日付けで整備済み

7. 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口を設置するための予定措置

2016年9月20日：病院運営会議にて決定
2016年9月20日：診療協議会にて周知
2016年9月30日：教職員へ再周知

8. 医療安全管理部門による医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業員の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認実施のための予定措置

2016年4月1日付けで整備済み

9. 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

2016年12月31日までに部門設置の検討

2017年2月21日：病院運営会議にて決定

2017年2月21日：診療協議会にて周知

2017年2月28日：教職員へ再周知

10. 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業員が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

2016年12月31日までに規程（案）の作成

2017年2月21日：病院運営会議にて決定

2017年2月21日：診療協議会にて周知

2017年2月28日：教職員へ再周知

11. 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

2016年12月31日までに部門設置の検討

2017年2月21日：病院運営会議にて決定

2017年2月21日：診療協議会にて周知

2017年2月28日：教職員へ再周知

12. 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

2016年12月31日までに規程（案）の作成
2017年2月21日：病院運営会議にて決定
2017年2月21日：診療協議会にて周知
2017年2月28日：教職員へ再周知

13. 監査委員会を設置するための予定措置

2016年9月30日までに監査委員の選定・打診
2016年10月18日：病院運営会議にて承認
2017年4月1日：理事長より委嘱
2017年4月1日以降、年2回の定期開催

14. 他の特定機能病院の管理者との連携による立入り及び技術的助言を遂行するための予定措置

日本私立医科大学協会相互ラウンド組み合わせ相手大学病院との日程調整により実施する。
2016年度の組み合わせ：兵庫医科大学病院

15. 職員研修を実施するための予定措置

*2016年4月1日付けで整備済み（年間10回の開催）

16. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

2018年3月31日までに、国及び医療関係団体等が主催する研修会を適宜受講し、完了する。

17. 医療安全管理部門の人員体制

- ・所属職員：専従（6）名、専任（ ）名、兼任（3）名
- うち医師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（3）名
- うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
- うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
- *うち事務：専従（3）名

18. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

- ①薬剤師、看護師の専従は、2016年4月1日付けで整備済み。
- ②医師の専従については、
 - ・2018年3月31日までに、就業時間5割以上を当該業務に従事する者を1名配置する予定である
 - ・2018年4月に、就業時間5割以上を当該業務に従事する者を2名配置する予定である
 - ・2020年4月に、就業時間8割以上を当該業務に従事する者を1名配置する予定である